

### 第332回「軍事費の拡大、自衛隊の軍隊化、どう思う？」

話題提供：吉田千秋さん （17名）

米トランプ大統領が訪日で「これまでにない緊密な日米同盟」をアピールし、最終日、護衛艦「かが」で「同盟国のうち日本が一番多く米国からF35-B戦闘機を買っている」と演説し、平和憲法を持つ日本がアメリカから兵器を爆買いしている実態をつきつけました。そんな中、平成30年放送のNHKスペシャル「自衛隊変貌の30年」（平成史スクープドキュメント）の映像を観ました。

映像は、自衛隊が海外派遣、集団的自衛権容認など専守防衛から任務拡大へ向かっていった歴史を追いながら内実を取材したものです。変貌の分岐点となった事件――1990年朝鮮半島危機、1998年北朝鮮弾道ミサイル発射、1990湾岸戦争でのアメリカからの強い支援要求、1999年能登半島沖北朝鮮不審船で武器使用による威嚇射撃・周辺事態法、2001年アメリカ同時多発テロ、2003年イラク戦争（イラク支援法・対米積極支援）、2012年南スーダンへ自衛隊派遣、隠された日報、2015年安保法成立――をたどりながら、当時の関係者の証言を基に、国民に知らされない実態、兵器の近代化による戦闘能力の高まりなどを描いています。

また、今、急激に進められている沖縄南西諸島の基地化を空から写したDVD「沖縄ドローンプロジェクトの活動」も観ました。

鑑賞の後、参加者によって活発な意見交換が行われました。

「トランプ大統領訪問で安倍首相は「かが」の空母化を確約した。それでもまだ専守防衛を唱えている。専守防衛とは何か。我々が考える必要がある。」 「日本にとって都合が悪い事は選挙後に知らされる。我々は事実を知る必要がある。」 「武器3原則も撤廃されてしまった。我々が何もできないうちに進んでしまっていることがこわい。」 「関市では、自衛官募集に名簿を提供したり、募集案内状を発送したりしている。徴兵制につながるのではないかと不安。」 「アメリカのメディアは、『日本のリーダーがトランプにへつらう姿を世界に示した』と報道。」 「安倍首相はしっかり外交をしていると受け止めている人もいる。」 「軍事産業、日本の企業も儲けようとしている。その実態をメディアは知らせしてほしい。」 「自衛官募集については市町村に調査する必要がある。我々が今、何ができるかという視点で話し合う必要がある。」 「1741市町村のうち、協力を拒否しているのは5つのみ。プライバシーの問題でありおかしいと思う感覚を持つことが大切。」 「安倍首相は9条に自衛隊を書いても何も変わらないと言っているが、今回トランプ大統領の本音の言葉でねらいがよくわかった。」 「アメリカは基幹産業が空洞化し、軍事産業に活路を見出そうとしている。」 「トランプ大統領が今回の訪日で最初に経済界と会った。ねらいがはっきりしている。」 「今日のDVDに登場した高官たちは、憲法の制約について述べている。国民の世論も気にしている。だから私たちは憲法を守り世論を動かす必要がある。」 「カナダは、F35に欠陥があるので買うのを思いとどまっている。爆買いに対する怒りをどう運動にすればいいのか？」 「自衛隊はアフリカ東部のジブチに、200名ほどの自衛隊員が常駐する海外基地を持っている。このことを忘れてはいけない。」 「我々は地道にあきらめずに運動を続けるしかない」等々。

いまの情勢にかなった貴重な討論の場になりました。